

I.N.ジュニア空手大会「技術組手」試合規約及びルール

【試合に際して】

- 選手は清潔な空手衣を着用の上、試合中に空手衣、帯が乱れない様「帯留め」をして試合に臨む事。
- 応援のコーチ、父兄はYシャツもしくは道場指定のTシャツ等、ジュニア大会に相応しい服装を着用し、所定の場所のみで応援する事。
- 試合の呼出しの際に選手が不在の場合は例外無く「失格」と致します。
- 応援のコーチ、父兄も選手と共に「正面、主審、対戦相手」の順に挨拶をする事。
- 選手の挨拶が不十分（頭の下げ方、十字の切り方）の場合はやり直しを義務付ける。
- コーチ、父兄等セコンドの応援は相手選手を中傷するような言動があった場合は、セコンドに警告、退場、該当選手に注意等の罰則が与えられる場合があります。

【試合時間】

- 幼児・小学生＝本戦45秒、延長45秒

【防具について】

- ファールカップ、拳サポーター、レッグパットは全クラス義務付け。ファールカップは道衣の中に着用する事。
- ※1. ヘッドギア着用の必要はありません。
- ※2. 極度に薄い物、堅い物など危険と判断する防具は使用禁止と致します。（指定の防具と交換させます。）

【反則事項】試合中に反則コールは致しませんが、反則行為は判定に影響します。

- 頭を付けての攻撃。
- 頭突き、金的（急所）、下腹部（急所付近）への攻撃。下腹部付近への攻撃は全て反則となります。
- 掴み、掴んでからの攻撃。抱え込みや体を相手に付けながらの攻撃。
- 掌底又は正拳による押し。
- 拳、掌底、手刀、肘による顔面、首や喉への攻撃。
- 倒れた相手、背後からの攻撃。
- 上段へのヒザ蹴り攻撃。
- 突き蹴り等の技を仕掛けずに相手選手との間合いを詰めた場合。（頭や体付けを誘発する行為として反則となります。）
- 突きの連打は2連打までとする。3連打以上は反則となります。（頭や体付けての攻撃の原因となる為。）
- 試合後、武道精神に反する勝利した選手のガッツポーズや雄叫びは失格とする。従って双方次の試合へは進めない。

【判定】

- 主審、副審による審判団（5人審判団、3人審判団の場合有る）が競技の審判にあたる。判定は、全て審判団の多数決の旗判定によって決定し（5人審判団の場合は3人以上、3人審判団の場合は2人以上で有効）、勝敗の判定は全審判同時挙げてによって決する。不測の場合は大会審判長、実行委員長と協議し対応を決定する事。
- 主審は必要に応じてタイマーを止める事とする。副審も必要と感じた場合は主審にタイムを進言出来る。
- 審判団は技の正確性と技を繰り出す際の気合いに基づき優劣を決する。
※「技の正確性」とは速い引き（スピード）を伴った突き、蹴りを的確に相手部位に当てる事。また突き、蹴りの挙動に際しては相手からの攻撃を想定し、守備動作（ガード）を行わなければならない。
- 両者上記同印象同点の場合は、以下の順位で優劣を決する。
 - ①回転技、連続技等の技の多様性をより多く取り入れた方。
 - ②上段への効果的な攻撃をより多く攻撃に取り入れた方。
 - ③手数、足数をより多く繰り出した方。

技術組手ルールはあくまで「組手」が苦手な選手の為の「組手ルール」です。
元気一杯に技を繰り出し、稽古で覚えた色々な技を披露する場と捉えて下さい。